



砂と太陽の救世主 前日譚
「救国の雛鳥」 When the phoenix is born.

忘却の中にある、ありのすさび。
それらは全て、あなたのいる世界のために。

主人公	相良 優禅	さがらゆうぜん
秘書	加藤 道成	かとうみちなり
想い人	長順 美恵	ながよりみえ
長順の恋人	香田 賢	こうだけん
因果調整師	小岩 金吉	こいわかねきち
因果計算師	宗家 ヤマヒト	そうけやまひと
一級執行官	海座 鹿路	かいざろくろ
二級執行官	鹿道 海里	しかみちかいり
時代の先駆者	ヴェイジヨナリーバンガード	
明智 光清	あけちこうせい	
フリーエージェント、探偵	「天才」の異名	
横碧 王仙	よこへきおうせん	傭兵、無所属概念使い
藤堂善一	とうどうぜんいち	警察官僚
ネイロヴの頂点、三賢存在		
コマメリアス	地球滅亡強硬派	
ケドルミレンクテ	地球救済派	
セトルヴォーン	中立穏健派	

ロブオイエルト ネイロヴ 情報書記官長
アリリエルティ ネイロヴ 主席交渉役

Neighborhood meeting place NMP

隣人の集会所

カンバサンヒト ネイロヴ カイサムの上司 主席交渉役

363L (サレミール) ネイロヴ

カイサムの同僚 異星担当外交官一位

K136 (カイサム) ネイロヴ 異星担当外交官一位

アグルマハンテ

リクエラ 翠緑の女王

プラントリアン

その事実を知るに当たったの条件に適性検査が存在する。

検査結果として下からD'、F++、F+、F'、E'、E+、E++、Cとあ

りEから適性が可能とされている。

ほとんどの人間がDかF++であると考えられており適性を持つ地球人はかなり少ないとされている。

例外としてCから上はC+、C++、β'、β+、V'、αとなっ

Ghost Maker

ゴーストメイカー

大木林 大次郎 おおぎばやしだいじろう
外務大臣兼、異種族交渉担当大臣

サターンレギオンno.7

ハイペリオン・イルアーペト

ネプチューンレギオンno.1

トリトーン・ネレイアド

「僕はその言葉を一生忘れない」

(真夜中に山中を走っている、車の中)

優禅 美恵ちゃんとの結婚、とか考えてる？

香田 なに？ 結婚式は来てくれるの？

優禅 もちろんいくよ、二人を心から祝いたい

(ゆっくり微笑み)

香田 ありがたい話だねえ、けどまだ考えてなんかないよ、
向こうだってそんな気はないと思う

優禅 そうか、まあそうだよな

香田 美恵とも、幼稚園からかあ、もう長いなあ、あつとい
う間、相良とも小学校からだもんな

優禅 ……。

香田 相良は浮いた話ないの？

優禅 僕？ ないよ、ないない

香田 そうか、けど俺たちの仲も本当に長いよなー

優禅 あー、もう何年だろ？

香田 6年すぎたら関係は死ぬまでっていうらしいよ

優禅 そうなんだ、ならもう一生か

香田 そうなるね

香田 なんか、ありがとn

(反対車線から衝突、大事故)

(優禅の語り) 僕らはその日、一緒に星空を見た。

そして山頂で聞いた彼の言葉を僕は決して聞き逃さなかった。

(破れた手袋、割れたメガネ、壊れた望遠鏡のレンズ、傷ついたス

マホ)

「今日未明、星空を見に行つたとされる若い男性2名が山中で対向
車線の車と衝突し、一名が死亡、一名が軽傷であるの
が警察関係者への取材で明らかになりました」

「運命の歯車と鳴かない雛鳥」

こういう日こそ雨だ。

(聞きなれないお経と人が行き交う足音が聞こえる)

加藤 やはり無理なさらない方が

優禅 いや、行かせてほしいんだ、すぐ済ませるから

松葉杖と共に外に出た、人の目が気になる。

噂されているようだ、生き残った方、だと。

(お焼香を済ませ、御親族に一礼。 優禅、何も言わずに車へ向

かう)

長順 相良君!

(遠くから長順が走ってくる)

優禅 ……。

長順 ……。

優禅 すいません……でした

(ガチャツ、ドン)

加藤 だします

優禅 ……。

車は煙のように走り去った。

(しばらく走ってから)

優禅 停めてくれる?

加藤 はい

優禅 先に、帰ってていいから

加藤 部屋を暖かくしてお待ちしています

優禅 ありがとうございます

(外に出る、雨ザーザー、車走り去る)

(大きな橋か、どこか水辺)

(虚ろに歩いている)

カイサム 雨が、好きですか?

優禅 え？

カイサム 私は雨が好きで、この地球の雨になりたいと思うほどに

優禅 それは

優禅 比喩的な意味で、ですか？

カイサム ふむ、ひどく勘がいいようだ、それはとても素晴らし
いことです

(にっこり)

カイサム あなたは、優しい人なんですね

優禅 いえ、そんなことはないです、好きな人の何の役にも
立てない、ただの小さな小さな、人間です

(カイサム、傘をさしてあげる、ゆっくり)

カイサム 謙遜ですか、つくづく良い、そこが弱点にすらなっ
てしまうほどに

優禅 ……。

カイサム 好きな人の役に立ちたいんですか？ それは比喩的な
意味で？

優禅 いえ、純粹に彼女の力になりたいんです、でも僕には
できない、その役目は僕ではないんです

カイサム ……。

カイサム あなたのお役には立てるかもしれませんが

(名刺をだす)

カイサム 明日でも、明後日でもいいので連絡を必ずください

(傘を渡す)

カイサム それでは

(にっこり、雨の中去っていく、それを見る優禅)

(優禅、自室)

(名刺を見る、想いに耽る)

「卵が先か、鶏が先か」

(走っている車内、後部座席、電話での会話)

カイサム 良い人材を見つけました、私の見立てでしかないですが簡易計測スコアもいい、先ほど送ったデータをみましたか？

小岩 はい、でもどこで見つけたんですか？

カイサム たまたま、雨の中で

カイサム 巣から落ちこちてしまったはず濡れの雛鳥のようでした

小岩 雛鳥？

カイサム 比喻ですよ

小岩 比喻、ですか

カイサム 彼はこの世界の分岐点になる存在です、いわば特異点とも言える

小岩 買い被りすぎでは？

カイサム いえ、私のこの6つの目に狂いは生じようがない

小岩 大した自身だ、計画を始める価値があると？

カイサム ええ、いよいよかもかもしれませんよ

小岩 接触してみましよう

カイサム その餌付けも済んでいます、必ず明日あなたに連絡がいくことでしょう

小岩 承知しました

カイサム インドラルのゲートの警備をしてもらおう流れで業務提携を結びつつ、彼に話をします、私と海座くんも同席を

小岩 話が早すぎませんか？

カイサム 彼ならきつと大丈夫、私にお任せください

小岩 承知しました

(ピツ)

カイサム さあ、きたれ、雷の如く、きたれ、きたれ、雷のよう
な声で

「二つ目の分かれ道」

(数週間後 相良のマンションにて)

(ピンポーン)

加藤 どちらさまでしょうか？

長順 長順です、相良くん、いらっしゃいますか？

加藤 相良は今、

優禅 いや、いいよ、すぐでます

優禅 ありがとうございます

(マンション一階入り口エントランスにて)

優禅 何か、用事だった？

長順 いや、あの、これ田崎さんがみんなにお土産をもって、

相良くんにも

優禅 ああ、わざわざありがとうございます

長順 みんなも相良くんに会いたがってたよ

優禅 そうか、嬉しいな

長順 体調はまだ？ 松葉杖はもういいの？

優禅 うん、まあ、まずまず、かな

長順 そっか、そうだよね

長順 あの……、相良くんは

優禅 ……。

長順 何も悪くないよ

長順 事故なんて、急に起きるし、避けられないことが多い

だろうし

優禅 ……。

長順 ……。

優禅 ごめんね

長順 違うの、そんな言葉が聞きたいんじゃないわね、私は

優禅 だけど伝わったよ、ありがとう、じゃあまた

(マンションに消えていく優禅、立ち尽くす長順)

「世界の真実という名の辻褄合わせ」

(大層な料亭にて、個室の入り口には宗家と鹿道が警護、部屋の座

敷には優禪、小岩、海座、カイサムが密会中)

カイサム と、まあ世界はそう言った危機に瀕しています

(諸々世界の説明、別作品「星の導き手」p40 「Grande incontro」

内容)

優禪 ……。

カイサム 今の話、全て嘘だと思えますか？

カイサム 私が話したことはただの妄言だと？ 私のこの姿も

(カイサムの本当の顔になっている。日頃は仮面で隠しているか、

人間の顔にしている)

優禪 いえ、どこか安心を、覚えているんです

カイサム 安心？

優禪 この世界はもちろん完全ではなく、不完全でありなが

らその理由は果てしなく多い

優禪 僕はそこに明確な理由が欲しかった

カイサム いわば原因を知りたかったと？

優禪 はい、あまりにも世界が混沌としすぎてることへの理

由、原因

カイサム その全ての原因がネイヴイルにあるというわけではあ

りません

優禪 もちろんそうでしょうけど

海座 その混沌への辻褄があいすぎるってところは私も共感

します

優禪 そうなんです、だから海座さんも小岩さんもこうして

戦っているんですか？

海座 まあ、そうですね、私は人間が好きなので、あと家族

を守りたいだけです

小岩 私は因果調整師の適性があつたのと、単純に面白いから

優禪 面白い？

小岩 それこそ相良くんの感覚に近い、この世に多くの疑問を持っていたから、その正体を知れるならぜひ見たい

カイサム 理由はみなさん様々ですが、相良さん、あなたには素質がある、一度正式な適性検査を受けてみませんか

カイサム あなたならこの世界の混沌を減らせます、ひいてはそれが世界存続の礎となる

カイサム あなたは、選ばれし人だ

優禪 僕はそうは思いません

カイサム 英雄は、自分自身で英雄とは名乗らないものですよ

カイサム 本題に入りましょう、我々組織が使用する建物の警備を相良さんの会社にお願いたいです、警備対象の表向きはただの企業ですので相良さんの会社にご迷惑をおかけすることはありません

優禪 はい、我が社がお力になれるなら、なんでもします、秘書の加藤と私しか業務の全貌は判らないようにしておきます

カイサム 助かります、資料と提案書は明朝に改めてデータでも送らせていただきます

優禪 承知しました、よろしく願いたします

カイサム 私と小岩さんは次の予定がありまして、なので今日はこの辺で、海座くんがお送りします

優禪 ありがとうございます

カイサム はい、ではまた

(帰りの車内、海座が優禪を送っていく車内)

海座

彼は大量な話をしすぎるところがあるんです

優禅

けどそこがカイサムさんをカイサムさんたらしめるんでしょうね

海座

さすがです、よくお分かりで

優禅

いえいえ、そんな

海座

どうです？

優禅

適性検査ですか？

海座

ええ、今の正直な気持ちを聞きたくて

優禅

自分が何かの役に立てるなら、そこに価値は必ずある
と思う人間です

海座

そこは、やっぱり「何か」なんですか？ 特定の誰か
ではなく？

優禅

そうですね、役に立てるなら誰でもいいし、そこは世
界が対象なんですよね、変ですか？ なんか偉そうで
すよね

海座

いえ、素晴らしいと思いますよ、無くしてほしくない
気持ちだ、尊敬します

海座

まあ、まずはやってみると言うのもいいかと思いま
す、最悪、やっぱりやめる、そのために記憶を消すと
言う選択肢も我々なら用意はできますし

優禅

そうですね、まずはやってみる……か……

「人類のノルマと銀河のレコード」

(外務省の一室にて)

大木林 そんなこと許可できるわけないだろう！

カイサム 許可云々の次元の話ではない

(きつ)

大木林 なっ……

カイサム 最早、決定事項です

(にこっ)

大木林 そんな馬鹿なことを……、な、なんとか言わないか！

棧俵！

棧俵 ……。

カイサム 我々が結んだ契約の特記事項に明記してあるはずで

す、特殊事案、いわゆるフォーホースメン、黙示録の

四騎士に関わる任務は無条件でこちらの指示に従うと

大木林 だとしてもだ！ ひっ、一つの県をこの世から消すな

ど頭おかしいのか

(イライラしている大木林、タバコを吸いまくる)

カイサム 臆することはない、これからこれ以上の事案は増える

傾向にあります、この事案が霞むくらいに

カイサム そして我々が今やらなくても数年後には別の事案で操

作不能になった大型人工衛星を東海地方のどこかに落

とす羽目になり、国と県の見解で住人の少ないのを理

由に指定された県に誘導し、落とすことになるんです

大木林 それはあくまで予測だろう！

カイサム いえ、これはプラチナムレコードにも書かれているこ

と、これもまた人類が避けられるものではない

(じつと大木林を見続けるカイサム)

カイサム あなたがた国家はそれを自ら計画した上で住民には告

げず無理やり決行し、想定以上の死傷者を生むことになる、その死傷者の中には大臣クラスを複数とそのご家族、そして秘密裡に訪れていたこの国家を陰で支える人々も含まれており、世論も政治も大荒れ、その隙を彼らに突かれる

大木林

宇宙人風情が……、脅せばなんでも言っていないわけじゃないぞ！

カイサム

我々の提案する計画で事前にその指定した県を湖に変えることによつて被害を最小限に抑えることができる馬鹿馬鹿しい、そうだ！ なら、その未来の人工衛星の落下自体をどうにかできんのか！

大木林

カイサム

流石にあの質量のものを我々でどうにかするには荷が重すぎる、かなりのエネルギーが必要です、今から我々と契約したノルマとは別に隕石破壊のためのエネルギーを国家が負担していただけるなら、上に検討を申し出てもいいですが、いかがです？

大木林

ぐうう、それは……

カイサム

無理でしょうね、ノルマにはまだ何百年とかかる計算です、それにノルマはあなた方民族の身の安全を約束する天秤のために交わした約束のはず、それを別の事案にすげ替えるなど言語道断

大木林

ぐぬぬ、棧俵ア！ なんとか言わんかア！ なんのためにお前をその役職に就かせたと思っっているウ！

棧俵

申し訳、ありません

大木林

ただの宇宙人の言いなりかア、キサマア！

(机をドンツ！)

(シーン)

カイサム

相変わらず良いガベルをお持ちのようだ

大木林　　な、なにい？

カイサム　今の机を叩いたのは、あの裁判のアレのモノマネですよね？　ありがとうございます、結はとられた、棧俵さん、参りましょう

（二人、立ち上がる）

大木林　　おいっ！　待たんかっ！　ま、まだ何も決まっておらんぞ！

カイサム　また書類を送らせます、どうせ総理と陛下の印があればあなたのその口も閉まることでしようし

大木林　　貴様ア、その国家を馬鹿にした発言を取り消せ！

（カイサムが空をなざると大木林の口が閉まっていく）

カイサム　印はまだないですが、お先に口だけ

大木林　　んー、んんー、んんんんー！

カイサム　それでは、また

（ガチャン、部屋を後にするカイサムと棧俵、部屋の外には檜川）

棧俵　ふうう

檜川　お疲れ様です

カイサム　棧俵さんだけです、疲れているのは、ね？

棧俵　毎度、いい経験をさせていただいてます、はああ

（廊下を歩いていく）

檜川　計画通りですか？

カイサム　計画も何も、あなた方人類に合わせて無意味な儀式的手順を踏んでいるだけです、私はこれが嫌いではないですが

檜川　ご迷惑をおかけします

カイサム　いえいえ、様々な任務が常に同時進行ですからね、自ずとこうなります

棧俵　本当にあれは決定事項なんですか？　あの、一つの県

を消滅させる作戦なんて

カイサム　いえ、まだ何も決まってるなにかいませんよ、ご安心ください

棧俵　はあ、よかった、ただ最近のカイサムさんは侮れないからなあ

(エレベーター前)

カイサム　はっはは、照れますね、なんか

棧俵　褒めてはないですよ、ほんとに、牽制です

(カイサム、へへっ)

カイサム　そういえば相変わらず海座さんも働き者ですから助かってます

榎川　それならよかったです、あまり本部に帰還する余裕もなく次の任務についてしまうので

カイサム　売れっ子ですもんね、彼も、榎川さんも

榎川　いえ、そんなことは

カイサム　さあさあ、まだまだ今日は参りますよ、次は首相官邸です

「どんなときも自分が自分らしくあること」

(鹿道と相良が広い廃工場にて訓練中、それを見ている海座)

(そこにカイサムが入ってくる、夕方)

カイサム どうです？

海座 すごいです、本当に○判定ですね

カイサム 才能が？

海座 ええ、裏付けがどこにあるのかはわかりませんが、い
うなればそうだと思います、カイサムの見立て通りで
したね

(見つめる)

海座 概念殺しの基本の扱い方は教えました、あとは彼の今
後の鍛錬と世界への興味次第、にわかにはあまり世界
に興味があるようには思えません

カイサム これで不死鳥の誕生ですね

海座 不死鳥？

カイサム この星に来てから比喻表現が好きで

(あ、そう)

カイサム 本部にはもう通達を？

海座 ええ、もう時期稟議に引っかけられますから、カイサム
の出番です

カイサム それは私ではなくLHGTの仕事です

海座 同じですよ

カイサム 私は敵対ではなく、中立

海座 対抗手段では？

カイサム 何の？

海座 いくつかの叛逆のための

カイサム あなたたちをそこまで愚かだとは思っていない、私た
ちはあなた方を愛している

(手を広げて礼をするカイサム)

海座 ……。

海座 まあいいでしょう

カイサム 引き続き、よろしくお願いします

優禅 カイサムさん、来てたんですね

(気づいた優禅、鹿道と歩いてくる)

カイサム お疲れ様です、鹿道さんもうも

鹿道 お疲れ様です

(カイサムと優禅が歩く)

カイサム どうです？ 技術の扱いは難しいですか？

優禅 なかなか慣れないので難しいですね、ちなみにカイサムさんも概念殺しは扱えるんですか？

カイサム 我々ネイロヴが提供した技術と人間の皆様が長きにわたる研究の末たどり着いた理論が相まってできた技術です、だから私にはとてもとても

カイサム 似たような技なら使えますけどね

優禅 そうだったんですね

カイサム ようやく時代が追いつきました、我々の理論を任せても問題のないほどの知能と理解力になったんです人類が

優禅 相変わらず壮大ですね、話が

優禅 この技術を扱うにあたってのコツなんてあるんでしょうか？

カイサム そうですねえ、海座くん？

海座 はい

カイサム 鹿道くんも

(近寄ってくる)

カイサム 概念殺しの技術にコツとかはないんですか？

鹿道 コツ、ですか？

海座 コツ……か

海座 私が気をつけているのは日頃から冷静でいること、だろうか

優禅 冷静でいること

海座 何かを生み出すにしても正確に生み出さないと相手に通用しない場合が多いし、冷静に目の前を見て相手の生み出したものの粗を見つけて打破できたりもするの
で、うん

鹿道 勉強になりますね、僕はそうだなあ

鹿道 身体や精神が延長している意識を持つこと、ですか
ね？

優禅 身体、精神の延長……

鹿道 どこまで生み出したものが届くかとか、拡張されたエリアってようは自分の延長というか、そういった感覚を持って臨んだ戦いで上手くいったことが多くて

鹿道 そして生み出したものとエリアは常に伸縮するので、もちろんそれを安定させるための日々の修行も大事な
んですけど、その意識というか、いわば可能性を覚え
ておくってのも大事ななとか思いますね

カイサム みなさん勤勉でいいですね

優禅 なかなか難しいんですね、やっぱり

カイサム ええ、ですが結局一番大事なのは、あなたがあなたらしくいることだと私は思いますよ

優禅 自分らしくってことですか？

カイサム 技術を使うのは自分ですから、あなたが一番想像できるものが一番綺麗に生まれ出でると思います

優禅 意識してみます

カイサム　はい、どうぞ日々の研鑽をお忘れなく、わたしはこれで

（一礼して去っていく）

「僕の役目ではなくても、やっつけてしまうこと」

（夜、オフィスにて仕事中の優禪に連絡が入る、長順がバイト先の飲み会の席で潰れてしまったので助けて欲しいのと、優禪も同じバイト先で勤務経験あり）

（居酒屋の入り口に飲み会の人ばかり、優禪、到着）

優禪　　すみません、すぐ運びますから

奈美恵　　相良君ちってみえちゃんちに近いんだよね？

優禪　　はい、すぐなんで僕が送ってきます、今日は参加できなくてすみませんでした

佐藤店長　　いいよいよ、仕事なんですよ？　夜まで大変だね

優禪　　ご迷惑をおかけします

奈美恵　　相良君て何してるひと？

高井　　え、なんか会社経営してるって言ってなかったっけ？

（店の前に高級車が止めてある）

高井　　これ……相良君の車？

優禪　　はい

（彼女を後部座席に寝かせる）

優禪　　すみません、これ今回の会費4000円でしたよね？

佐藤店長　　あ、ああ、ありがとう

優禪　　ではこれで

（車、走り出す、しばらく走る）

長順　　まだ……、帰りたくない

優禪　　いいよ、ドライブしようか　or（わかった）

(帰り道を反対に曲がり、大きな港付近の道路へ加速していく)

(しばらく走って)

長順 会いたい……

そう後部座席で横になりながら囁く彼女はいまにも泣き出しそうだった。

彼女に自分は何をしてあげられるだろう。

いくら考えても、何も浮かばない自分の頭に苛立ちを覚える。

すぐでも抱きしめてあげたい、その不安を取り除いてあげたい、

悲しみの元を消してあげたい。思うのは簡単でも、それを現実にすることはできない。

長順 どうして私を置いていったの、どうして、私を一人にするの

優禪 ……。

僕はただ静かに車を走らせるしかなかった。

しばらくして車内には微かな彼女の寝息だけが聞こえていた。

(ドライブを終え、長順をリビングのソファアームまで運ぶ、ちよっと起きてる)

長順 ごめんね

優禪 いいよ

長順 ……。

優禪 ずっと、ここにいればいいよ、ずっと

長順 ……。

優禪 それでいいんだよ

(次の日、午前中)

加藤 以上になります、何か変更点はございますか？

優禪 いや、ないよ、これでいこう

(大きな会議室にサインをするボールペンの音だけが鳴っている)

加藤 それでは、午前中はこれで

優禪 うん、ありがとう

(外は真夏の陽気で、一週間ぶりの太陽が街を照らす)

加藤 社長、日中のご予定は覚えていますか？

優禪 えっと……何だっけ

加藤 因果調整師の方との会合です

優禪 ああ、そうだったね、了解したよ

加藤 よろしくおねがいます

(加藤が部屋から退出)

扉がゆっくり閉まってから数秒後に溜息が出た。

自分は今何をしているんだろう、真面目に仕事をしているけど、

なぜか満たされない自分は何なんだろう。そんな疑問を持つこともおかしいのか？ みんなは何を考えて生きているんだろう。そんなことを考えながらビル下の歩く人を見る自分は卑しい人間なのかもしれない。

時間は午後12時42分、さあ昼ごはんを食べに行こう、今日はカレーにしようかな

「名誉の犠牲か、利己的な虐殺か」

(ファミレスに入店する、昼過ぎ)

小岩 いやいや、堅苦しいお店より私はこのような店の方が安心します

優禅 すいません、そんな小岩さんに甘えてしまいました
小岩 むしろ私としてはありがたいのでこちらが助かります、とりあえずドリンクバーを4人分

小岩 先日の件ですが、秘書の加藤さんから先に了承する
だけ簡単なお返事をいただきました、この度は誠にありがとうございます

優禅 いえ、誰かの役に立てるなら、それに越したことはありませんので

小岩 つきましては私どものダミー会社といってもダミーでも何でもないのですが
(そう言うと彼は紙を一枚取り出す)

小岩 ここに振り込んでいただけたら万事完了いたします、
手始めに273万を管理費、警備費として翌月に30
5万を更新費、その次はまたご連絡をいたします

優禅 はい、わかりました、秘書の加藤がミスなく行います
(秘書加藤、一礼する、優禅、印鑑を押す)

小岩 ふう、毎度この瞬間が終わるまでは気を抜けません
優禅 そうなんですか？

小岩 業務内容が内容なので、身辺調査や様々な手順が多く
ここに至るまでが複雑なんです

優禅 いわゆる裏の仕事ですもんね
小岩 ええ、かつこよく言えば人類の守護、捉え方を変えれば人類を欺く悪魔の所業

優禅 ……。

小岩　まあ、そんなものは屁理屈ですのでね、相良さんはお
気になさらずに

優禪　はい

優禪　小岩さん

小岩　なんででしょう？

優禪　小岩さんの所属するインドラルという組織は時間を操
るんですよ？

小岩　ええ、まあ言うなればですが、愚かにも時間を操らせ
ていただき、未来や過去を少し修正、補填などを行っ
て、人類を守っています、それだけではないですけど
ね

優禪　……。

優禪　なら、人を……生き返らせることは可能ですか？

小岩　……。

小岩　可能ですよ、彼もいますので可能だと思います

（隣で宗家がパスタをもりもり食べている）

宗家　えー、何言ってるんですか！　そんなの大事になります

よ！

小岩　生き返らせたい人が、いるんですか？

優禪　はい、います

小岩　ふむ、もちろん、はい、では生き返らせましょう、と
簡単にすむことではありません、手順とそれなりの代
償や手続きが必要です

優禪　手順とは？

小岩　それを行うためにまずあなたがしなくてはならないこ
とが多数あります、それらを全てこなした上でようや
く人を甦らせる権利を得ることができません

優禪　じゃあ、代償はなんですか？

小岩

その生き返らせた人間が生前使っていたものが数点、そしてその人が生前行ったこと、積んだ徳の数、質に応じて計算された生物の命です

優禅

生物の……命……

小岩

それは人間ではなくても、動物や植物など様々です、その方のお名前と年齢は？

優禅

香田 賢、24歳です

小岩

24歳となるとそれなりに人生を歩んでいますからね、あ、SNSアカウントなどお持ちでしたか？正確な数値は計算してみないことにはわかりませんが、そうだと丁度計算機を持っているので計算してみましょう部外者の前で計算機出していいんですか！？

宗家

小岩

彼は特別なビジネスパートナーです、隠し事はやめましょう、全て些細なことです

(宗家しぶしぶ計算機を取り出し、計算し始める)

小岩

ふむふむ、これはこれは

優禅

何か、わかりましたか？

小岩

生前の彼はなかなかの善人のようだ、そうなると代償も大きくなる

小岩

ざっと計算して200万ほどの人間の命とその他の生物で足りるでしょう

優禅

200万人の命……

小岩

まあ、あなたが直接手を下すわけではないので、私は殺人とは違うと思っていますが

宗家

何言ってるんですか、こんなの立派な虐殺ですよ

(もりもりパスタを食べる宗家)

小岩

一気に200万の人間がこの世から消失してしまうので生きている人間の記憶情報に誤差が出てしまいま

す、遠い親戚がいなくなるとか友人がいなくなるとかですね、その因果のどこに誤差が生じているのかを計算するのが彼の仕事で、調整するのが私の仕事となるわけです

優禅

……。

小岩

本来、この調整を行うに当たっての料金とその他手数料を頂くわけですが、今回は出資もしていただくわけなので、もしやるのであれば手数料はおまけしておきます

宗家

ええ！ 俺タダでやるんすか？！

小岩

なら私が計算もするから君は私の代わりに調整会合に参加し、私と同等の成績を収めてくれるか？

宗家

計算しまーす

(宗家、またパスタを食べ始める)

宗家

そこまでして生き返らせたい人ですか？

優禅

……、はい……

宗家

やめといた方がいいっすよ、過去にこれに近いことをやった人がいたんすけど、まあ今回ほど大量の代償ではなかったすけど、変わった世界でやっぱり自身の意思で人の命を奪った実感が後から湧いてきて発狂した人を見たことあるっす

小岩

そうなった場合は私が責任持って依頼人を殺害しま

優禅

す、諸々に影響が出てしまっってはいけないので

小岩

その人も処分されたんですか？

優禅

……、はい

小岩

……。

小岩

また次回まででいいので考えておいてください、やるのか、やらないのか

「truth or false」

(純喫茶にて カイサム、サレミール板付き、夕方から夜になりかけ)

サレ そんなにうまくいくものか？

カイサム どうだろうな、我々の真意には人類も気づくまい

サレ 相変わらず危ない橋を渡りたがる

カイサム これも人類のため、決して上を欺いているわけではな

い、良き方向へと導いているだけさ

サレ どの口が何を言うか、ひいては自分のためだろうか？

カイサム はは、情でも湧いたか？

サレ かかかっ、馬鹿らしい

サレ だが完全に否定しきれない自分もいるのがもどかしいものだよ

カイサム この星に長く居すぎたな

サレ お前に言われたくないよ、この肩の入れ用、お前こそじゃないのか？

カイサム さてね、私はいつだって我々組織の繁栄を念頭に置いている、じゃなきゃこんな仕事をこうも長くはできない

サレ どうだかな

(コーヒーを啜るサレミール)

カイサム 滑稽だと思わないか？ たかが2000年ほどの文明が核分裂という科学の岐路に到達し、そこからゆっくり崩壊を始め、なんどもその文明勃興を繰り返すのだ

カイサム 何も学ばない、何度も何度もそれらを繰り返す命を消費するのみのただの潮流、そこに価値を無理やり見出して生きているのがこの人類だ

サレ ふむ

カイサム　この地球という星を超える文明など他に腐るほどあるのに、この生物たちはこの小さな到達点にしか至れない文明にすがりたがる、そこがとても不思議でね、つくづく興味が湧く

サレ　だからいろんなもの達に目をつけられて侵略され放題、それを救おうとしたのが我々だものな、もはやこれは救済、なのかもしれないな

(少し笑うカイサム)

(小岩と宗家が入店してくる)

カイサム　予定通りに？

小岩　はい、その話題が自ずと彼の口から出ました

カイサム　そうですか、彼は決断をすると思いますか？

小岩　しかねない、と思います

(2人着席後、注文)

サレ　甦らすのはどういう人なんだ？

カイサム　彼の想い人の元交際相手だ、先々月に事故で亡くなっ

た

サレ　ほお

カイサム　その事故があつてから彼の想い人は塞ぎこんでしま

い、日々の生活もままならなくなつて今は彼が面倒を見ている、好きな人には元気で笑つていて欲しいらしい

サレ　ありきたりな動機ではあるが、大半の人間なら諦めるし、自身の所業に耐えきれないだろうな

カイサム　ああ、だが腐つてもC判定、むしろC+寄りだ、心底驚いた、才能があるのは何よりも強い

小岩　ちなみにヤマヒトはE++です

宗家　それ余計っす

サレ 地球人にまさか新たなC判定がいるとは。これを機

に判定見直しのための論文を作成せねばな

宗家 カイサムさん、何であんなガキとつるんでんすか？

カイサム 運命といえば運命、かもしれませんね、いろいろある

んです、まあでも全てはあの山頂から始まっているの
かもしれませんからね

(はあ?)

宗家 相変わらず意味わかんないすよ、サレさんからなん

とか言ってくださいよ

(無理って顔をしてから笑うサレミール)

カイサム 意味がわからないことへ異常なまでに興味を示すのが

あなた方、地球人でしょう？

宗家 まあ、確かに、はああ、マジ地球人めんどくさいっす

ね

「二つ目の分かれ道」

(優禪、自社の社長室にて、香田と長順、優禪が映る写真を眺め

る、香田と優禪のツーショットも眺める、夜)

(優禪、帰宅)

部屋は静かだった、いつもと何も変わらない。

だが一つだけ違うといえば、リビングのソファーに彼女が寝ている
ことだけだ。

散らかった衣服を抱え、彼女の寝顔を覗いた。

こんなに力の抜けた顔をして眠るのを僕は初めて知った。この世に
こんなに可愛いものがいるのかという気持ちに包まれ
る。

そんなことを思う自分はやはり馬鹿なのかもしれない。抱えた衣服

を洗濯機に入れ、湯を沸かす。徐々に大きくなる音だけ広いリビングを走っていく。彼女は目を覚まさない。よく眠れているなら何よりだ、本当に何よりだ。こんな時間に紅茶を飲んだら眠れないだろうか。牛乳を入れれば逆に眠れるかも。

ただ思う、僕は、こういう幸せを味わっていいのだろうか。

長順 ……、おかえり

(起こしてしまった)

優禅 ただいま

長順 今日も世界を救ってきたの？

優禅 そんなところかな

長順 なんてことしたの？

優禅 それは言っちゃだめなんだ

長順 けち

優禅 お風呂入った？ 歯は磨いた？

長順 うるさいなー、今からですー

おもむろに立ち上がった彼女は吸い込まれるように脱衣所へ消えていった。

これを幸せというのか？ だけど僕は知っている。

彼女がシャワーを浴びながら声を殺して毎晩泣いていることを。

これを、偽りの幸せというのか？

(長順がシャワーから出てくる)

(リビングのデスクで寝てしまっている優禅)

(お風呂から出てきた長順が近づく、優禅の側に寄り微笑むが鞆の中の概念使いの資料に目がいく、取り出す、最近の優禅の行き先が気になっていたので、カバンの中には破れた手袋、割れたメガネ、壊れた望遠鏡のレンズ、傷ついたスマホ)

「大いなる予測、大いなるはかりごと」

(美術館の大きな部屋に大きな絵画、カイサムと通信機のホログラム)

カイサム 私は、彼は使えると思うのです

カーン 使えるとは？

カイサム 定期事項の人口整理と彼自身の事案を重ねてしまつて、それを彼に代行してもらおうと

カーン 最初からそれを狙っていたのか？

カイサム そんなことはありません、あくまでこれは結果論です
カーン 大胆な方法だな、リスクも大きい、そんなにうまくいくもなかね？

カイサム 彼は我々の想像以上の逸材です、私が見つけてきた可能性の原石です

カーン もし成功したらJOYの来訪を避けられる一歩が始まるか、または最悪でも延期を期待できる、か

カイサム はい、できれば来訪自体を白紙に、せめてコマメリアス殿ではなくセトルヴォーン殿へ来訪の変更も期待できます

カーン 様々なシナリオの展開が見込めるといわけか、コマメリアス殿がきたら3日で南半球の陸地は全て消し飛ぶだろうな、シナリオなんてあのお方には関係ない
カイサム 全面戦争いや、大規模殲滅は回避できません

カーン んん、だが決断しかねるぞ

カイサム 今すぐ決断をする必要はありません、少し私に任せてみてはくれませんか

カーン いやわかった、カンバサンヒトの令により一時的に権限をここカイサムへ命ずることとする

sys音声 ピピッ、権限確認、事例承諾、本部から最終承諾命令

遂行許可、命令は安全に承諾されました

カーン 抜かりなく頼むぞ、ことは慎重を要する

カイサム 承知いたしました、お任せください、最善を尽くします

「その幸せの代償を僕自身が払って、彼女に本当の幸せを

戻してあげたい」

(広い海岸、砂浜にて、周りには誰もいない)

(優禪と海座、鹿道が海の方角を見ていると、海の中からいつもの服装のままカイサムと小岩、宗家が歩いて上がってくる、濡れていない、口には呼吸器具をつけている)

優禪 あの話、お願いしてもいいですか

カイサム ご決断をされたわけですね、一種その業をあなたは背負うと

優禪 はい、背負うことに決めました

カイサム あなたにとって彼女は、それほどまでに大きいのです
ね

優禪 ただ、彼女の思う本当の幸せを感じていてほしいだけです

カイサム そうですか、あなたらしいことだ

(ふふっと)

カイサム 上に許可はとっていますから、すぐ話を進めましょ

小岩 う、小岩さん、宗家さん、よろしく願います

宗家 はい、万事こなしてみせます

カイサム うす、やるからにはしっかりやり遂げます

海座さん、鹿道さんも計画を行う地の剪定とそのエリアの準備をお願いします

海座 はい、すぐに行動に移します

(鹿道、相槌、ポケットから金属の筒を出し、手のひらの上でぶつけて音を鳴らす、綺麗な高い音、するとその場の全員を包む透明の膜が張るような感じになる、鹿道、電話を始める)

(会議室のたくさんある巨大ビルに大勢のスーツの人間が大荷物でゾロゾロ入っていく、長い廊下の両側に各会議室、綺麗にスーツ姿がその各会議室に流れていく、会議室の真ん中に大型の機器を取り付ける人、パソコンを開く人、様々な作業をしていく、それらをテキパキ指示する青山、じっと外の街を見下ろす長田)

(海座が優禪に握手を求め、握手を返す)

海座 相良さん、よろしく

優禪 こちらこそ

海座 これが君にとつての初めての大事な、きっと君はこの機会でコンセプトマニピレイターとして何かを掴むはず、その感覚が今後の君の活躍を幾度なく助けられるはずだ

優禪 ……。

海座 感覚つてのは本当に大切だね、そこに流れる時間、空

間、時間の流れているその空間、その空間の拡張性と収縮性、肌に触れるそれは何か、誰かの手、撫でる毛並み、空を覆う雲、頬を伝う涙に軌跡、晴れに降る雨、呼吸する鼻と呼吸する足、愛すべき隣人、これを(海座、手をぎゅっと握り、それを開くと手にジッポ、それを手渡される優禪)

優禪 これは？

海座 詳しくはこの計画が終わった後に話すけど、これはト

ークンと違って我々コンセプトマニユピレイターにとって必要不可欠なものでね、たった今から計画が始まるまで肌身離さず持っていてほしいんだ

優禅 わかりました

海座 本当は自分ならではのトークンを自身で探し選んで、しばらく肌身離さず持って、ようやく使えるようになるんだけど、今回は特別にこれを使ってほしい、さあポケットに入れておいて

(優禅、ジッポをポケットに入れる)

海座 計画の開始は数日のうちにまた伝える、それまで体調を崩したりしないようにしてほしい

優禅 はい、よろしく願います

海座 今日は鹿道が送るから

鹿道 はい、私が

優禅 ありがとうございます

優禅 カイサムさん

カイサム 明後日、お迎えにあがります

(優禅、会釈)

(鹿道が優禅を車に案内する、それを見守るカイサムと海座)

海座 ついに、後には引けなくなりましたね

カイサム ええ、ようやく始まります、待ちに待ちました、この瞬間を、雷の如く、雷のような声の時を

(しみじみ)

海座 あんな好青年に背負わせるのはやはり気が引けます

カイサム なにを、彼だって立派な大人です、そこらへんの同年代よりよっぽど大人だ

海座 それはそうですが、あまりに荷が重いのではないかと
カイサム 優しいですね、さすが父親だけある

海座 関係ありますかね

カイサム もちろんです、あなたが父親になったから私はあなたをあそこから引き抜いたんですよ

海座 父親じゃなかったら引き抜いてないんですか？

カイサム ええ、あそこで父親にならなかった場合はあなたを殺すつもりでした、あなたは当時、大層尖った人でしたからね、正式に敵に回るくらいなら、という決め事でした

海座 そうでしたか、そりゃあ妻と娘たちに感謝しなきゃ

な、あはは

カイサム さあ、まだまだ準備もありますし、私たちも本部に戻りましょう

海座 はい、そうしましょう

「平等の意味、平等の必要性」

(二人の基地的な場所にて)

横碧 不可解なことが多い

明智 どんなどころに？

(明智ホットドッグを食べている、三個目)

横碧 ところどころに穴がある、監視が緩いとか、外での話し合いが多いとか、他にも色々、いつもはそんなことはしないのに

明智 気のせいじゃないの？ と言いたいがお前さんが言うんだから何かあるかもしれないな、ちよつくら、くらみっちゃんをけし掛けるか、でかい案件だしな

(にやにや明智)

横碧 依頼人にもさらなる情報を要求しよう、準備不足でこ

ちらが破滅しては意味がない、今後に嫌な影響が出て
も困るしな

(パソコンを使う横碧)

明智 そりゃそうだ、戦う相手は国家秘密組織たちだからな
それにしてもいいのか？ ついには国を相手取って戦
うなんて、元々お前さんは国側の人間だろ？

明智 あいつらはやりすぎたんだよ、どこかで誰かが止めな
くてはいけないんだ

明智 そもそも生命の価値に差などない、それでよかつたん
だ、だからといって命を軽んじるということには決し
てならない

(大机の上のものを素早くどかして広げて、大きく説明し始める)

明智 たとえば蟻と犬と人間と象の命というものに差なんかな
ない、そこにあるのは脆さだけ。 蟻を踏む時に感触
あるか？ 人間には心がある、そして時間を感じるこ
とに長けている、犬を蹴り殺すのには時間がかかる、
蹴る足が痛む、犬も悲鳴をあげ、逃げたりする、追
かけて蹴るが、時間が経つにつれ、やはり可哀想だ
と、愚かな行為だと思いはじめる、人間が象を蹴り殺
すのは困難を極める、そのうちに象がこちらを蹴り殺
す、そのとき象は悲しむのかな

明智 命自体の差なんてないんだよ、だけど人間は厄介で、
その命に差をつけたんだ

横碧 ……。

明智 生きている時に何をしたかで差をつけたんだよ、それ
を明確にする必要なんてなかったのに、そしてさらな
る利益のためにその差を利用した

横碧 だから様々な種族の怒りを買った、と

明智

ああ、それを知らぬ、存ぜぬで通そうとしているのもムカつく、愚かにもそれで世界を救うつもりになっている、賢くあるものにしかできないものを賢くないのに求めるからこうなる、傲慢なんだよ、だからそれを裁き、破壊する、そのためにヴィジョンリー・バンガードを作った

横碧

もうじき藤堂さんも合流すれば、もっと動きやすくなる

明智

そうだそうだ、なんてたって数少ないオールドタイプだし、つええんだよ、あの人

明智

歴史が物語るよ、あの強さを

(横碧のパソコンに通知が入る)

横碧

早いな

明智

どうした？

横碧

依頼人から面会の申し出だ

明智

それはそれは、行くしかないな、さあどう出るか

「翠緑の女王と、えも言われぬ園」

(田舎町の田畑の真ん中に急に現れる森林みたいなやつに明智と横碧が車で到着する、明智が外に出る、横碧がグロック3丁のチェックをする、外の明智にグロックを渡そうとする、明智が断る)

明智 上手くやるさ、こんな場所に僕なんか来れるなんて機会は二度とないかもしれないからな

(にやり、スーツを直す)

(横碧、車の後部座席に置いてあるバッグ内のアサルトライフルをチェックする、同じバック内にある将棋の駒もポケットに入れる、車外で警備を始める)

明智 なんかあったら骨は拾ってくれな

横碧 ああ、任された

(明智が森林の中に入っていく)

(進んでいくとだんだん明るく鮮やかな緑になっていく、とにかく草木が生い茂り、それが壁になったような場所に出る)

(そこに美しい女性のようなプラントリアンと侍女数人)

リクエラ すいません、わざわざ我が「園」へお越しいただきまして

明智 いえ、この程度、お安いご用です、むしろ知る人ぞ知る「園」に入れるとは思っていませんでした

リクエラ うふふ、喜んでいただけたらよかったです、これを私の信頼の証として受け取っていただけたら嬉しいです

明智 もちろんです、翠緑の女王

(侍女が明智のボディチェックをしようとする)

リクエラ 必要ないわ、この方はそのような物騒な方ではないですもの、ね

(侍女が一礼して下がる)

明智 あ、ははは、よくご存知で

リクエラ あと私のことはリクエラと呼んでください、「天才」

明智光清さん

明智 ははは、恐れ多い、なら私も明智でお願いします

(にここにこ)

(二人、歩いてテラスのような場所に向かう)

明智 任務についてなんですが、こちらの事情ですいません

ん、追加の情報を要求するなんて

リクエラ いえ、あなたの方がこの任務の信用性に懸念を示すのはわかっていました、私もこのような場をと随分前に進言したのですが、審議の結果、侵略派に却下されました、それを押し返すのに時間がかかってしまいました

(どこからともなくツルが現れ、追加の資料を明智に渡す、微笑む

リクエラ)

明智 そうでしたか、それはそれは

リクエラ 今後このようなことがないよう、下のものにキツク言っておきます、なので今後ともどうぞよろしくお願いいたしますね

明智 こちらこそです、あなたのような方と仕事ができるのは光栄なことですよ

リクエラ でも、こんな大掛かりな作戦なのに何かいつもより世界が物静かなんです、皆も何かを感じとっているんでしょうね多分

明智 そういうもんなんですか？

リクエラ 我々は根で全て繋がっています、我々種族をこの地球に蔓延る一つの生命という認識もできる、遙か遠くの種族の声を聞き情報の共有などできるんですよ

明智 それは便利ですね、すげえ

リクエラ まあ、あまりに遠すぎると聞こえずらいなど色々あって、万能とはいかないですけどね

(間)

リクエラ 止められますか？ この計画を

明智 どうでしょうね、クライアントにこういう言い方してはいけないんでしょうけど、確信というのはいつでも確信した人間こそ裏切ってきますから

リクエラ ふふふ、どこか発言に自信を感じますね、これが「天才」の所以ですか？

明智 いやいや、そんなことはないです、私自身に苦い経験が多くあるだけです、こんなものはただの統計ですよ

(お茶を啜る)

リクエラ 明智さんは、芸術、好きですか？

明智 急ですね、いや、まあ映画とか絵画とか、嗜む程度にですが

リクエラ そういいう言い方をする人は普通の方より精通しているのが相場です

(ふふふ、ツルがくるくる)

明智 いや、まあ、どうでしょう

(頭、かきかき)

リクエラ なぜネイロヴがこの星を救済するのか？ 意味を考えたことがありますか？ なぜ彼らはこの星に介入するのか

(高い頭上ホール部分から太陽光が優しく降り注ぐのを眺めるリクエラ、ところどころ蔦が脈動している)

明智 いつか来る破滅のシナリオを避けるため？

リクエラ なぜ避ける必要が？ この星に住んでいるわけでもな

明智
いのに、そもそも関係性など無いはずなのに
まあ、確かに、無数の星の中の一つだし、勝手に滅べ
ばいいかってのもありか

リクエラ
ええ、そのとおり、それもまた然りでしょう
ですが彼らはそれを見過ごさない決断をした

リクエラ
そうなればどこかに利害関係がないと説明がつかない
のでは？ 彼らの利益になるものがこの星にある

明智
利益になるもの？

リクエラ
この星にその貴重な利益になるものがあつた、何だか
わかりますか？

明智
……、わかりません

リクエラ
芸術です

(ツルがくるっ)

明智
芸術？

リクエラ
そう、そしてそれを生み出す精神、これはこの星で唯
一秀でているもの、そしてこの宇宙で須く尊いと認め
られており、貴重とされるものの中の2つ

明智
芸術とそれを生み出す精神……

リクエラ
この星で唯一あなた方人間だけ、生み出すことができ
たもの

リクエラ
そして彼らネイロヴが存在するために必要なエネルギー
ーになるもの

明智
いわば食料資源みたいなことですか

リクエラ
ええ、そんなとこです、それだけに使用するわけでは
ないですけどね

明智
……。

リクエラ
芸術は「存在する」それだけで価値がある、そしてそ
の芸術を生み出す精神は特殊な作業工程を踏めば、純

度の高いエネルギー結晶に変換できる、そしてその結晶は様々なものに応用が効く

明智 じゃあ、言うなれば人類は奴隷ってことですか？

リクエラ そう言う解釈ができなくてもいいですね、少し悲観的すぎるとは思いますが

明智 くそやろうがっ

(強い苛立ち、だが思わず緊張が解ける)

明智 なぜそれを僕に？ というか、これも僕が知らないだけで業界周知の事実だったりしますか？

リクエラ このことを知るものは少ない

(どこか遠くを見るように)

明智 はあ、僕が知る世界よりもまだまだ世界は広いのか、馬鹿げた話だ

リクエラ ふふ、やっと本音で話してくれた

明智 え、あ、いやあ、別に、だ、だってかしこまるでしょう、こんな厳格な場所にくるなんて滅多に無いですから

リクエラ 私は嬉しいです

(微笑み、つるがくるくる)

明智 ならよかったす

(恥ずかし呆れる明智)

リクエラ ただあなたに、知っておいてほしかった

明智 それはなぜです？

リクエラ なぜでしょうね、あなたが何かを成す人間であると、確信、しているのかも

明智 そんなの尚更、馬鹿げた話ですよ、僕なんか世界を変えたりなんかはできません、僕はただの小さきものです

リクエラ

でもこの話だけでなく、あなたはそれを知ってしまった以上、何かしらの行動に移る、そしてその行動を決してやめない、何かに自分の満足する答えにたどり着くまで

(じりっ、つるがぴっと明智を指す)

(ため息を吐く、明智)

明智

ただ僕が一つ言えることは「平和は1日にしてならず」ってだけです、僕の師匠の受け売りですけど、好きなんですよね、この言葉

(ごほん)

(にこっとするリクエラ、つたがくるくる)

リクエラ

そんなあなたにこそ我々種族は力を貸したい、私はヴィジヨナリーバンガードに賭けているんです、だからなんでも言ってください

明智

責任が重いな、いや、もちろんやれる最大のことをしますよ

リクエラ

そう言っていただけだと思った、どうぞ、よろしくお願ひしますね

「天才と英雄の邂逅」

(優禪、朝の目覚めから、何事もない自宅での休日、昼にはテレビを見て、パソコンで少し仕事をしてなど)

(夜になって、日頃は来ない夜の繁華街に出向く、やはり慣れないなどという気持ちになり立ち去ろうとするが、たまたまバーを見つつけ、吸い込まれていく)

(階段を降り、入店)

女性店員　いらっしやいませ、お一人ですか

優禪　はい

女性店員　どうぞ

(小粋な女性店員が5席のカウンターへと手で案内する、奥のソファー席などに客がちらほら) (――――)

(着席、慣れないくせに落ち着いている)

女性店員　何にしましょう？メニュー見られますか？

優禪　ブラントンありますか？

女性店員　もちろんです

優禪　ロックで

女性店員　かしこまりました

(男性が入店してくる)

男性　かーっ、今日も今日とて何事もない日かよってなあ、

客入りはどうよ？

女性店員　まあまあです

男性　そうかい、ならいいのだ

女性店員　酔ってます？

男性　酔わずにここには来ないよ、がはは

(カウンターに座る男性、すぐうつ伏せ) (――――)

(優禪の前にブラントンロックが置かれる)

女性店員　ごゆっくりどうぞ

(会釈、一口飲む)

(男性の前にも何かのロックが置かれる)

男性 気が合いますね

優禅 ?

(気づくと男性がうつ伏せのまま優禅を見ている)

男性 お好きなんですか？

優禅 これですか？

男性 ええ、僕の師匠もブラントンが好きで、僕もそれに付

き合っていたらいつのまにかこればかりを飲むようになってしまいました

優禅 おいしいですよ、でもよくわかりましたね

男性 ええ、亜城ちゃんの動きが種類の酒を入れる動きしかしてなかったのとロックグラスを追加する音がしたのと、バーボン特有の匂いがして他の酒の匂いがしなかったのでわかりました

(えっへん)

優禅 すごいなあ

男性 鼻が良いんです

(さすさす)

男性 しかも僕、巷では「天才」って呼ばれてるんですよ

女性店員 その呼び名、本当は好きじゃないくせに

男性 亜城ちゃん、酔ってる時はこの呼び名が好きって何回言ったら覚えてくれるのよ、どう考えても最高ですよ、「天才」だよ？ 師匠がそう呼んでくれたんだから

亜城 はいはい、すいませんでした

男性 わかればいいのよ、わかればれば

亜城 すいません、ダル絡みを

(優禪に謝る亜城)

優禪　いえいえ、こういう出会いにこそ、何か新たな発見が

あつたりするものですよね

男性　いい発想をお持ちだ、すばらしいしい

(グイッと煽る男性)

男性　お客さんにもう一杯あげて

亜城　まだ途中ですから

(なだめる)

亜城　次の一杯、彼がご馳走してくれるそうです

優禪　え、そんな

男性　いいんですよ、僕がこの店のオーナーなんですから

優禪　そうなんですか

亜城　こう見えて実はそうなんです

優禪　それじゃあ甘えようかな

(グイッと優禪も煽る)

男性　お！　いい飲みっぷりだあ、ほれほれれれ

(亜城がはいはいともう一杯作る、優禪に出す)

男性　こちら辺の人ですか？

優禪　はい、近くのビルとそこに会社を持ってまして

男性　それはそれは、じゃあ社長さんだ、ご苦労様です

優禪　いえいえ、そんな

男性　なにか、考え事があるんですか？　だがその考え事に

悩んでいるわけではない

優禪　なんだかすごいですね、ただの洞察力で片付かないで

すよ、これは

男性　当たってるでしょう？

(にこにこ)

優禪　そうですね、当たってます

男性 さすが僕！ がはは！

優禪 自分には見合わない大其れたことをする予定がありまして、自分ももちろん望んだことなんです、どこか落ち着かないんです

男性 ふむふむ、何かを感じてるんですね、それはなぜでしょうね？

優禪 なぜなんでしょう……

男性 と言いながらも、その理由が実はわかっている

優禪 ……。

(一口)

男性 いいですね、実に人間らしい、僕は好きですよ、そういうの

優禪 そうですか？

男性 人間の本質には忘却の獸的側面があります、その悩みも、その感じているものも、この瞬間もこの出会いも、結局すいつか忘れてしまう、そこにたとえ何か大いなる決断があったとしても

優禪 ……。

男性 でも必要なですよ、人間にはこの時間が

男性 いつか消えていくもののためだけにだって必要なものが存在する、そこにこそ逆に価値があるかもしれない

優禪 消えていくもののために必要な、消えていくもの世界は流転する、万物は流転する、一体なんなんでしょうね、この世界は

男性 僕にもわかんないですよ、この天才でも世界のことをわからない、どんどん想像もしないことが起こる、それでも僕はこの世界を救いたい、この世界を愛しているから

男性

あなただっけってきつと同じことを思っているはずだ、同じ匂いがするんだもん、本当は身勝手なエゴを許せない性分でしょう、僕にはわかるんだ

優禪

鼻が良いんですもんね

男性

へっ、そうなのよ、そうなのよ

男性

この世界を救いたい、だからあなたは今も考えている、自身の決断が正しいのかを、いつだって

優禪

……。

男性

でも実はその時間が重要なんですよ、どうかそんな自分を信じてほしい、僕が言えるのはそんなことくらい

男性

誰かが誰かのためにしてあげられることなんて結局些細なものなんです、でも受け取り手にとってはそれが爆発的で素晴らしいものになったりする、だから些細なことでも全力を注ぐ価値がある

(優禪、飲み干す)

優禪

良いお話を聞きました、感謝しますオーナーさん

男性

いやいや、僕なんてただの小さな人間ですから、大した人間じゃないんです、ただどこの世界のために一緒にがんばりましょうね、ズムズム

(寝そうな男性)

亜城

どうぞ、気にせずお帰りください、寝たら起きないんでこの人でこの人

(お金を出す優禪、受け取る亜城)

亜城

ありがとうございます、どうぞまたいつでもおこし下さい、お待ちしております

優禪

ありがとうございます、ご馳走さまでした

男性

身勝手な利益を追求するあいつらは僕が討つんだ！

僕ら人間にはそれがでできるはずだ、このういじよな
りーばんがーどがー、それをー

(むにやむにや沈んでいく男性)

(微笑みながら入口へ歩き出す優禪)

男性　また会える気がします、どこかで

優禪　僕もそう思います

男性　なので名前はあえて聞きません

優禪　そうしましょう

男性　へへ、良い友になれそうだ、僕はあなたのことがよく
わかる

優禪　ありがとうございます、ではまた、天才オーナーさん

男性　あはは、また

(店を後にする優禪、と同時に入店するロングコートの女性)

霞　何また潰れてんの？

亜城　ええ、相変わらずです

霞　弱いのに飲むから、おい、またあんたの店に金を落と
しに来たよって、おい、光清！

明智　ああ、これはこれは天下の因果師さん、はいはい

(俯いたまま話す明智)

霞　今日もひどいね

亜城　いつものでいいですか？

霞　うん、お願い

(ピニャコラーダを作り始める亜城、完成して霞の前へ)

亜城　どうぞ

霞　ありがとう

霞　んーっ、相変わらず上手に作るね、おいしい

亜城　ありがとうございます

霞　あんたが探ってた件だけど、本部総出で動き始めてる

よ、ただ長田さんと青山さんの管轄だから、そんなに深くまでは探れないかも

(カバンからファイルを出す、うつ伏せのまま資料を探り、触って字をなぞる明智)

明智 いいんだいいんだ、うんうん、

霞 相変わらずそれきもいね、そんなんで何が書いてあるかわかるの？

明智 インクの微かな凹凸と摩擦の有無、文字の個々の違いをなぞれば、何が書いてあるかくらい推測できる

霞 あ、そう、変な特技

(うつ伏せのまま、次々になぞっていく明智)

明智 うんうん、そういうことか、確かにこれ以上の内部詮索は無理そうだな、正確な日程までは流石に難しいか
霞 ダミーがいつも以上に張られてる、中のどれかが正確な日程だろうけど、サレミールも相変わらず強敵だからね

明智 だろうなあ、サレミールにバレないようによくぞここまで資料を集めれるもんだね

霞 あんたと違って長い時間国に仕えているから、様々なコネがあんのよ

明智 インドラルで働くことを国に支えてるって言えるのかね

霞 そんなところに疑問を持つ必要なんてないの、ほんと、あんたは辞めて正解かもね、何かにつけ考えすぎ

明智 そういう性だから仕方ない、辞めて正解だと僕も思ってる

(身体を起こす明智)

明智 支払いはまた「枯れた花」への資金援助って形でい

い？

霞 うん、それをお願い

明智 いつまで続けるつもり？ もう長く持たないことくらいわかるでしょうよ

霞 もっと望ましい形で終わらせるタイミングがあるのよ、ね、亜城ちゃん

亜城 私もそう思います

明智 それは亜城ちゃんもメンバーだからだろ

亜城 だったらなんなんですか、じゃあもう明智さんからの仕事受けませんか？

明智 脈絡関係なく働き口のオーナーを脅すのか？ そんな可愛くないことするなよ、亜城ちゃん、頼りにしてんのよ、まじで

亜城 嘘ですよ

明智 びびらせんなよ、ちゃんと教育しとけ、こら

霞 教育なんてとんでもない、数少ない残ってくれた偉大なメンバーなんだから、ね

亜城 はい、異変に負けませんでした

明智 大したもんだよ、先生の調律から逃げ延びるなんて、聞いたことないよ

(グラスを煽る明智)

霞 やれんの？

明智 どうだろうな、同じようなことを翠緑の女王にも言われたな

霞 え、会ったんだ！ やば！

明智 な、やばいよな、僕はビビりっぱなしだったよ

霞 大変ねえ、あんたも、で、どうなの？

明智 そんなもんはやってみるまでわからない、たとえば失敗

しても必ず得るものはそこにある、それくらいしかわからない

霞 はああ、気楽なものね、フリーの人は

明智 そうでもしないとやってられないだけだよ、いつだって事前に綿密な計画を立てるくらいしかできない、そのためには時として気楽な感覚が必要だったりするんだよなって話

霞 そっか、まあ上手くやってよ

霞 先に死ぬとか絶対やめてよね

明智 先生より先に死ぬなんてありえないよ、師匠にそういう迷惑をかけてはだめなんだって昔から言われてる

(少し微笑む、霞、お金を亜城に渡す、退店する)

霞 じゃあ、頑張ってたね、また

明智 おう、天才に任せろ、また

「それは僕の役目ではないから」

(作戦当日、山奥のインドラル施設にて、目まぐるしく動く施設

員、会議室組との連携の連絡が飛び交う、そんな中の広い屋上に二人、晴れ)

カイサム この作戦の後の話をしていませんでした

優禅 後の話？

カイサム あなたはもう作戦対象の香田さんとの自発的接触は基本的に行わないと、ここに誓ってください

優禅 ……。

(驚いてはいるが顔色が変わらない優禅)

カイサム あなたとの接触によって、たった一ミリの記憶の綻びが何かを呼び起こしてしまうかもしれない、もちろん

それが起きないようにインドラルの方々が頑張ってくれるわけですが、今回の作戦は非常に大掛かりです、どんな些細な要因も残したくない

優禅 はい、わかりました、彼が無事に生き返りさえすれば問題ありません

カイサム いいんですか？

優禅 何がですか？

カイサム 私が話している話は香田さんともう会うということですよ？

優禅 はい、きっと彼には彼の役割があります、彼ならきつとそれを成し遂げてくれるはずですよ

カイサム そのために彼を？

優禅 はい、僕にはできない事を彼がやり、彼にできない事を僕がやる、ただそれだけです

カイサム ……。

カイサム ですが、これは言うなれば長順さんにも事実上会えなくなるということですよ

優禅 ……。

優禅 いいですよ、香田が戻れば、必然的に僕は必要なくなります

カイサム 本当に？

優禅 何がですか？

カイサム 本当に、そう考えている？

優禅 ええ、彼には彼の、彼女には彼女の、僕には僕の、です

カイサム はっ、っはっはっはっは！

カイサム やはりあなたは素晴らしいお方だ、私の目に狂いはなかった！

優禅 ?

カイサム 感謝を述べたい、今回の作戦の勇氣ある決断をどうも

ありがとうございます

優禅 いえ、これは僕が世界を巻き込んだ僕自身のエゴなので

(ふふふ)

カイサム そろそろ時間ですね、今後のあなたの活躍と人想研、

インドラルの名誉ある仕事に祝福を

「予期せぬ客人たち」

(施設屋上にて、因果調整師が10人整列している。周りには複数
人他の人間もいる、カイサム、黒柄、大木、朝江海座
もいる、仙座、リファイリオ、阿古井も並ぶ、少し遠
くで集中する優禅、早朝)

カイサム どうです？

リーフ 全て問題なく

リーフ 小岩はどうか？

(施設内オペレーションルームに小岩と宗家、その他大勢のオペレ
ーター)

小岩 全て問題なく

(リーフがカイサムに合図、カイサムが仙座の方を見る、仙座、相
槌する)

カイサム では、はじめましょう

(仙座、手を挙げる、その場の因果師全員が各々の祈りの姿勢にな
る)

リーフ 計測開始

(インカムで話すリファイリオ)

(同時刻、会議室組、青山が応答)

青山 計測開始

(複数の会議室を無数の人間が行き来する)

OP1 解析終了、解析結果確認

青山 座標確認、東海地方北部一帯、詳細は秘匿

OP2 変換対象固定、補足

青山 変換対象固定、補足

リーフ 現時刻をもって、計画を開始する、変換開始

青山 了解、変換開始

(街の人間の動きが止まる、木々の動きも止まる、小さな虫、野良小動物の動きも皆ピタリと止まり、何もかも動きが止まる、音もしない、風は吹いている、様々なものが消失し始める、生物の後に建物、道路、山、何もかも、のちにその一帯が平らな地表になる)

リーフ ここから少し時間が

カイサム ええ、この間に相良さん

(優禅相槌、配置につく、数メートル先に香田の遺品)

(優禅の姿を見ている誰かの目線)

(優禅の近くによっていく海座)

海座 ゆっくり深呼吸をして、生き返らせる彼との思い出を想像するんだ

優禅 はい

海座 君と彼が事故を起こしてしまった日の朝、目覚める瞬間の彼を甦らせ、この世界に定着させる、全ての辻褄が合うようになっていくから安心して

優禅 はい

海座 始めます

(海座が合図、カイサム、相槌)

(優禪、集中する)

(10人の因果師が円形に陣形を変える、その中心に結晶が形成し
始められる)

(結晶が半分に到達したらへんで、一人の因果師の挙動がおかしく
なる、カツと優禪の方を見て走り出す)

(すかさず黒柄が携えている直刀の柄頭についているリングを鳴ら
し瞬間移動の如く速いスピードで、その因果師を追隨
し、身体を真つ二つに切る、次に頭部を切断する、一
同騒然、因果師たちも手が止まる)

カイサム 続けなさい!

(作業に戻る因果師達、各自、護衛の形を取る大木と朝江、海座)

青山 何かありましたか?

リーフ いや、解決する、問題ない、そちらに異常はないか

(問題ない素振りをする長田)

青山 問題ないです、継続します

リーフ 会議室組、問題なし、継続します

(相槌の後に眼を細めるカイサム)

カイサム 今のは……ゴーストメイカー、ですね

黒柄 はい、おそらく

(遠くの背後の何かに気づく黒柄、続いてカイサムも気づく)

黒柄 そこにいるだろうか? 叩き斬ろうか?

(光学迷彩のように滲んでいるように姿が少し見える)

カイサム 傍観者、別件か?

黒柄 時代の先駆者ではない?

カイサム ええ、違う匂いがします

カイサム 去りなさい、分が悪いでしょう? この数の一級概念

使いをここで相手するのは危険だと思えますよ

(じりっ)

(聞きなれない言語が微かに聞こえる)

カイサム　くるか

黒柄　面倒だな、斬りますよ？

カイサム　いや、目的が知りたい

(目がガン開きのカイサム、少し笑っているような顔)

(聞き慣れない言語がまた聞こえる)

(海座が走り出す、黒柄も気づくが間に合わない)

(優禅のすぐ近くにもう一体のにじんだ姿が現れる、優禅に攻撃を

しようとする、海座が庇う、海座の左腕が切れ、弾か

れる、次に素早く海座の左腹を深く切られるが相手の

右腕を脇で捉える)

海座　うう、ぐうう、んん

(相手の左腕から飛び道具が飛ぶ、優禅に当たると思いきや、2m

優禅の姿がズレているので当たらない)

(仙座の仕業、カイサムがにやりと仙座を見る、仙座もアイコンタ

クト)

海座　はぁあっ！

(その瞬間に海座の掌底が激しい水飛沫と共に相手腹部にモロに入

って相手が強く吹き飛ぶ、吹き飛んだ相手に黒柄が追

撃する、何か斬れる音がするが相手本体には当たら

ず)

黒柄　見えないのは斬りずらいなあ、おいっ！

(黒柄が追い打ちをしようとする)

カイサム　黒柄さん！

(ピタッと黒柄が動きを止める)

(相手の手元に何かがあるのが見える、少し睨み合い、相手がビビ

ーっと消えていく、最初に現れた方もビビーっと消え

ていく)

黒柄 退いたか、海座さんにメデイックを！

（大丈夫、大丈夫的な反応を見せる海座、運ばれていく）

（皆、満身創痍だが作業を続ける）

（優禪に近寄るカイサム）

カイサム 少々ありました

優禪 問題ないです

（汗が滲む優禪）

カイサム ふふ、もう時期結晶も完成します、そしたらすぐです

優禪 はい、がんばります

リーフ 変換完了、新規事実、歴史の形成開始、事実結合の作

業開始

青山 了解、事実結合開始、歴史形成開始

（作業をする作業員、宗家、小岩、会議室組も様々な動き、青山、

長田）

（俯瞰映像で東海地方のある部分が大きく凹み、水が湧き出ていく
ていく、そして湖になっていく、施設屋上では因果師
達の中心に巨大な結晶が完成する）

カイサム 相良さん

（優禪相槌、完成した結晶を優禪が触らずに遺品の上に移動させ
る、バッシャーンと砕けて液体になって遺品にかか
る、遺品が水溜まりの中にゆっくり沈んでいく）

（優禪の頭の中では香田との思い出が流れていく、どの映像にも
長順がいる、3人が幼少期から成長していく映像、3
人とも常に楽しそう、香田の死を知った時の泣き崩れ
る長順、慟哭する優禪、葬式の映像、火葬の映像、悲
しむ家族、星を見に行った時の二人、話す香田、驚く
優禪、温かい光の中で振り返って笑う香田）

（優禪が眼を開け、ゆっくりとポケットの中からジッポを水たまり

に投げ入れる、その水たまりが収束して、逆さ流星のように空高く打ち上がり、上空で破裂してすごい勢いで輝きながら広がり、静かに消えていく)

青山
因果調整を無事確認、対象の生存を確認、計画を終了、関係各所への連絡を開始、世論安定の作業を始めます

リーフ
了解、よろしく頼みます

リーフ
確認できました、生存を確認したそうです

(一同、安堵)

カイサム
お疲れ様でした

優禪
はい、これで

カイサム
ええ、大木さん、朝江さん、この場の確認作業をしつつ先日お伝えした手筈の方を人想研でよろしくお願ひします

カイサム
そして相良さんのケア作業もお願いします

(二人とも相槌、遠くを見るカイサム)

優禪
カイサムさんはまだ何かあるんですか？

カイサム
少し別件がありました

カイサム
インドラルのみなさんもありがとうございました、仙座さん、大変助かりました

仙座
いえ、貸し1で

カイサム
もちろんです

(カイサム挨拶をして、ささっと屋上から飛び降りていく)

(一同、施設に戻っていく)

(施設外を歩き、誰かと秘密裏に連絡を取ろうとする施設員が一人、その背後にカイサム、ヒツ、の顔をする施設員、
切断音)

「大きくて小さなズレ」

（「富岐湖」の湖畔の広い場所にて、明智が険しい顔、そこにカイサムが到着する）

明智 わざわざ親玉の登場かよ、やってくれたなあ、おい、こっちがどんだけ準備に時間かけたと思っただよ、急遽いろいろ変更しやがって、対応できるわけねえだろうが

カイサム はっはっはは、我々を上回るおつもりでしたか？

（袋に入った男性の頭部を持っているカイサム）

明智 っち、くそっ

（苦虫を噛み潰す顔の明智）

カイサム スパイを使うとは少々、爪が甘かったですね、らしくない

明智 ああ、功を焦った、彼にはすまないことをしたなあ、自ら協力してくれると言ってくれたから役目をあげたかった

（申し訳なさそうに頭をさする明智）

カイサム 残念です、誰だって英雄になりたがる、だがそんな人間の陳腐で小手先なもの是我々に通用しない

明智 だがあんたたちだって全知全能なわけじゃない、この星では頂点に君臨できても、この広い宇宙ではただの一族に過ぎないだろ

カイサム いい視点だ、人間では珍しい

明智 この計画をみすみす見過ごすわけにはいかない奴が大勢いるんだよ

カイサム あなたもその一人？

明智 さあな、言う義理はない

カイサム それは最早、言っているのと同じでは？

明智
カイスラム
勝手に言葉遊びしてくれ、それは俺の本業じゃない
次の手は何です？ もうここまでできたら阻止失敗でい
いでしよう？

明智
舐めんな、まだカードは残ってんだよ、肉を切らせて
骨を立つつてね

カイスラム
カイスラム
ふふふ、そうですか
ゴーストメイカーを信用しているんですか？

明智
なんだよ、バレてんのかよ、彼らと組んでるって言っ
た覚えはないけど？

カイスラム
明智
外交官として、日々の情報収集はかかせないので
どこまで知っている？

カイスラム
明智
いえ、まだまだ全くです
今回の揺動だってよくやってくれた、あんた方の計画
に想定外のメスを入れられただけで充分お釣りが来

る、あれはいずれあんたたちの度肝を抜くさ、人間を
あまり侮りすぎるなよ、

カイスラム
カイスラム
その忠告、ありがたく受け取っておきます
そんなに、使えますか？

明智
こんなもんは投資だよ、新技術を本当に本物の新技術
たらしめる未来のためのね

カイスラム
明智
さすがですね、「天才」明智光清
世渡りがうまいと言って欲しいな、今の状況でその名

カイスラム
は皮肉にしか聞こえない
ふむ、ですがいくらあなたの脅しでも、この計画は成

カイスラム
明智
さねばならなかった
なら、ここでどうでるね？

カイスラム
あなた方が今持つカードがどのようなものか、私の想
定が当たっていればこの方法で全て肩がつくはずなん

です

(にここに、腕時計を見る、大きく手を広げ、腕を伸ばしたまま胸の前でパチン、開くと光の玉、それを空に打ち上げる、光の球が弾けて静かに大きく広がっていく、怪訝な顔の明智、するとどこからともなく大きな鐘の音が聞こえてくる、驚く明智、終始明智に危害はない、考える明智、鐘がなり続ける、天を見続けるカイサム、鐘が鳴り止む、計24回)

明智　まさか……

カイサム　そのままか、なのかもしれませんね

(インカムに話しかける)

明智　王仙!

王仙　たった今確認した、日付が1日たっている

明智　なに？

(驚いて時計を確認する明智)

王仙　してやられたようだ、爆弾もその他諸々全部反応が消えてる、凶られたな

明智　こんなの、どうやって？

カイサム　この作業だけは偉大なる因果調律師に頼みました、かの「魔女」に

カイサム　大変高くなりましたが、世界の時間を1日ずらす作業はさすがに骨が折れるそうで

明智　くそっ、この界にほぼいないようなやつは捉えようがないだろ

王仙　要所、要所に数分の空白の時間があった理由はそれだったんだな、時間の保管、記録及び再生、置換か

カイサム　まあ、今回は見過ごしてください

明智　そちらからしたら人ごとだろうからな、こっちはさま

さまざまなクライアントとの契約があるんだ

カイサム 植物界と菌界の方には私から手を回しておきますの

で、ご安心ください

明智 くそつ、なんでも知ってんな、気持ちが悪い！

カイサム いえいえ、全てではないのでご安心ください

(にここにこ)

明智 ついでに海界にも口を聞いてくれると助かるがね

カイサム お任せください、総じてあなた方と戦わずに済むのな

らお安い御用です

明智 今回だけだがな、あなたの首を狙う輩は少なからずい

る以上、俺たちに依頼はきやすい

カイサム 困ったものですよ、あなた方をいつかどこかで始末し

なくてはならない、それにはとても骨が折れる

明智 簡単に恐ろしいことを言う、あなたにやられるときは

ただでは死なんぞ、必ず一矢報いる

カイサム 期待しましょう

明智 王仙、ともかくバラシだ、我々の作戦は失敗した

王仙 了解、ベースに戻る

明智 ああ、後で会おう

(ピツ)

明智 まあ、気をつけるんだな

カイサム ?

明智 あんた方は今後相当狙われることになる、弱点でも見

つけられたらそこを掻き回されて、あなたの野望も何

もかもぐちゃぐちゃにされるぞ

カイサム 望むところですよ、我々はそんなにヤワじゃあない

明智 ちっ、くそが、で、ここは見逃してくれんのか？

カイサム ええ、懐にある「それ」を出されては困るので

(明智の胸元にきらり、さすさす)

明智　　本当になんでも知ってんじゃないやねえの、へへへ、じゃあな

(明智、去っていく)

カイサム　　またどこかで、時代の先駆者たちよ

「世界はあんたが思う以上に広いんだ」

(優禅と小岩が契約した会社のビルの近くを彷徨く長順、警備員に話しかけたりもする、門前払いを受ける)

(そこに闇御津が現れる)

闇御津　　興味があんのかい？　概念使いに、それとも因果師

か？

長順　　知ってるんですか？　あなたは何かを知ってるんです

ね？

闇御津　　さあね

長順　　教えてください、相良くんは何をしてるんですか？

闇御津　　相良、相良か、ああ、あの不死鳥の雛鳥の、新人か

(闇御津、ビルを見て何かを思い出した感じで)

長順　　不死鳥？

(歩き出す闇御津、追いかける長順)

闇御津　　人間は真理を追求するくせにその真理に辿り着いた時の衝撃に耐えられる精神を基本的に持ち合わせていない

闇御津　　あんたはそれ、持ってるのか？

長順　　……。 (焦りとモジモジ)

闇御津　　自分の人生のある一瞬に何があったのか、自分が知らない自分がそこにあるとしたら、だが全てを知った上

でそこにどんな答えがあっても最早逃げることは許され
れない

長順 どういう意味ですか？

闇御津 ははっ、いいね、本当に何も知らないんだな

闇御津 知りたいなら、案内するよ、ただ茨の道なのは確かだ
それでも歩むのかい？ 初めから茨だとわかっていて
も

(じりっ)

闇御津 まあ、いい、もしあんたがその気ならまた会うだろう

さ、それが運命ってもんだろ

長順 ……。

闇御津 もう一回言っとくが、それを一度知ってしまったら、

もう逃げることは絶対に、許されないぞ？

長順 な、何度も言われなくなつて……

闇御津 へっ、後悔するなよ、世界はあんたが思う以上に広い
んだ

「騒がしい密談」

(ガチャガチャした市場街の中、人々の喧騒、霧雨)

(その中にある机に腰をかけるビジネスマン風と、複雑で変わった

服を何層にも着込んだ大男)

パル 今回の件は静観でいいのか？

フオブ 今更どうしようもあるまいて

パル ふん、まあ確かに

(二人は机一杯に広げられたご飯を食べている、多分中華っぽい)
パル ネイロヴどもの次の手は予測しているか？

フオブ カイサムのことだ、これほど大きな事を起こしたとい

うことは、いよいよフォーホースメンに切り込んでくるつもりだろう、より正確な結果を導くために必死だろうさ

(酒も煽る)

パル 政治家風情が、自身の保身と出世にしか興味がないくせに

フォブ まあ、いいさ、我々はこの星をいずれ吸いつくすまで楽しむだけだ

パル それもそうか

パル やつらは次にどこを狙うと見ている？

フォブ しばらくの期間において中東だろうな、我々への数世紀ぶりの大打撃狙い、そしてネイロヴの勝利の系譜の第一歩としては、それが順当な予想だろう

パル なら私もしばらく伏せよう、来るべき時のために

フォブ ああ、それがいい、私もそうしよう

(フォブオルスが立ち上がって、その場を去ろうとする)

フォブ ガイアファンクションにだけは絶対に手を出すなど皆に伝えろ、あまりに時期尚早だ

パル わかっている、我々に限らず、この宇宙にはまだ早いことだろう

パル では、これで

(近くにあった水たまりに傘をさしたパルリエルが消えていく、ズブズブズブ、それを行き交う人が踏む、パシヤン)

フォブ さあ見せてもらおうぞ、生粋の宇宙偽善者ども、勝利の第一歩を、はたして踏めるかな

(人ごみの中に消えていくフォブオルス)

「飛翔」

(計画の翌日、部屋を少し片付けている優禪、加藤も手伝ってい

る、準備が終わる、玄関にて)

優禪 諸々、よろしく頼むね

加藤 はい、お任せください

加藤 寂しくなりますね

優禪 随時、レポートが本部から送られるみたいだから、気

にならなくなるよ

加藤 親子共々、なんとも忙しい方々です

優禪 あはは、ご迷惑をおかけします、部屋のことはさつき

伝えた通りだから

加藤 はい、承知しました

優禪 あと美恵ちゃんにこれと言伝を

(手紙を加藤に渡す優禪)

優禪 香田といつまでも仲良くね、って

加藤 必ずお渡しし、お伝えします

優禪 よろしく

(一呼吸)

優禪 じゃあ、僕にしかできないことを果たしてくるよ

加藤 どうぞ、お気をつけて、呼んでいただければすぐにで

も駆けつけます

優禪 うん、ありがとう、じゃあ

(部屋を後にする優禪)

(雨上がりの開けた場所、出会いの場所にてカイサム板付きに合流

する優禪、佇む二人)

優禪 何も変わらないですよ

(目の前の川を見ながら話し始める優禪)

カイサム ええ、何も、変わらないですよ

(同じ方向を見て話すカイサム)

優禪

それなら、何かを気にする方が愚かでしょうか？

カイサム

いえ、そんなことはありません、そこにあなたが人間だという残滓が残る、だから忘れないほうがいい

優禪

ならそう努めます

(遠くの水面を水鳥が飛んでいく)

カイサム

私の指揮下で数回任務をこなしてから、あなたに頼みたい大きな任務がある

優禪

頼みたい大きな任務？

カイサム

あなただってわかっていているはずだ、この世には生きていてはいけない人間がいると

優禪

……。

カイサム

生きていても意味がない、何も学ぼうともしない人間、優しさの欠如した人間、人を騙し不当な利益を得る人間、この世にはいろんな悪人がいる、なぜこのような人間が多くいるのか、こんな人間をもし、もう少しでも減らせたらこの世の中はもっと良くなるんじゃないか、平和に近づくんじゃないかと、もっと救われるべき人間に光が当たる世界の方が素晴らしいだろうに、あなたは心の奥底からそう思っているはずだ。そんなのはあってないような気持ちです、それを想定するにはこの世界はあまりにノイジイすぎる

優禪

カイサム

ええ、それはそのとおり

カイサム

恒久的平和など実現は不可能、この世に絶対などないからです、人類ならばそう答える、でももしそれが実現可能なら、いや可能なのにただできないと思っただけだったら、しかもそれをもし自分が担えたら……

(カイサム、リストを取り出す)

優禪　これは？

カイサム　本部で整理した日本における悪の指数、いわゆるネガの規定値を超えている人間、いうなればネイヴイルと関係があると確認された人間のリストの一部です、組織や団体なども記されています、これがあなたにとって何を意味するのか、わかりますね？

優禪　このために僕を引き込んだんですか？

カイサム　滅相も無い、これは偶然ですよ、相良さんがそこまで深く考える必要はないと思います、それがあなたの、ひいては日本の、そして世界のためになることなんですから

カイサム　そしてそれらの任務を終えてから、いよいよこの世界を救う第一歩の任務に向かっていただきたい、それが先ほど言った頼みたい大きな任務です、場所はアフガニスタンになります

優禪　そんな大事を新人の僕に任せていいんですか？

カイサム　ええ、でも今のあなたではなく未来のあなた、いわば先ほどのリストが前哨戦になるわけです

優禪　……。

優禪　世界を救う第一歩は未来の自分に任せるとします、今は目の前のことをやるしかありませんよ、執行官として

カイサム　ありがたきお言葉

(歩き出す)

カイサム　あなたは今後、あなたが人間であるという事実が非常に重要になる

カイサム あなたは神ではない、だがいつか神にも似た行動を起
こすことになる

優禅 ……。

カイサム その時に自分を助けてくれるのは、あなたの人間性、
それだけ

優禅 それだけ

カイサム なのでお願いですから

カイサム 悪魔にはならないでくださいね

つづく

エピローグ

「またいつかのために雛にはいつでも戻れる巣が必要だと
いう願い」

(がらんとした優禅の部屋、そこに一人佇む長順)

加藤 長順さん

(加藤が入ってくる)

長順 あ、加藤さん、相良くんは

加藤 相良はしばらくここには戻りません、仕事で国内視察
や海外視察が多くなるためです

長順 そんな話、聞いたことないです

加藤 役員会で急に決まったことでしたので、ですがこの部
屋は好きだけ長順さんが使っていたとのことですが、
家賃なども気にせずでいいと

長順 ……。

加藤 何か必要なものがあれば、私に言っていただければ何でもご用意いたします

長順 加藤さんは何か知らないんですか？ 最近の相良くんのこと、なんか変じゃなかったですか？ 知らない人と会ってたりとか今までの相良くんにはなかったことがありませんでしたか？

加藤 そうでしょうか、プライベートのことはあまり話していただけませんので

(微笑む加藤、複雑な顔の長順、スマホには香田からの連絡が入っている)

加藤 相良より手紙と言伝を預かっています

長順 相良くんから？

(手紙を手渡される)

加藤 香田といつまでも仲良くね、と

(手紙をじっと見る長順)

加藤 すいませんがこれから外せない業務がありますのでこれ

長順 いえ、こちらこそ、わざわざすみません

(一礼して部屋を後にする、加藤)

(さらにがらんとする部屋、色が抜けていく感じ、ゆっくり座り込んでしまう長順、ため息)

(ベランダの扉がゆっくり開く、ちなみに高層階)

闇御津 ほおー、ここが不死鳥の部屋か、でかいねえ、リビングの広いこと、広いこと

長順 あ、あなた！ え！ 勝手にどこから！

闇御津 まあまあ、そう騒ぎ立てるなよ、おまえさんの部屋でもあるまいに、またあの秘書がきちまうぜ

(思わずだまる長順、部屋を物色する闇御津)

闇御津 痕跡はほぼないな、隠し通したってわけか

長順 どういうことですか？

闇御津 まあ、そうせぐな、せぐな、今日はゲストがいるんだよ、ゲストが

(ゆらゆらと長順の周りを歩く闇御津)

長順 ゲスト？

(ベランダに眼をやる闇御津、続く長順)

(ベランダからゆっくりと入ってくる男性)

小岩 初めまして、私、因果師をしております、小岩金吉と申します

長順 因果師……？

闇御津 さあ、茨の道の第一歩、始めようか

つづいていく